

## 応用行動分析に基づく子どもの学校適応支援

**Keywords** : 応用行動分析, 学校適応, ソーシャルスキルトレーニング, 特別支援教育

### 研究概要

私の専門は心理学の中でも応用行動分析という領域です。応用行動分析とは、ヒトや動物の行動獲得のメカニズムを応用し、問題となる行動の修正や、またより適応的な行動を形成するための支援をし、その効果をデータに基づき検証するという研究・実践分野です。私は主に、学校現場の特に通常学級において見られる、私語や指示への非従事、授業中の立ち歩きや学習困難といった問題行動を扱って、研究活動や実践活動を行っています。また、子どもの社会性発達が学校適応に及ぼす影響についても関心があり、社会性を育むソーシャルスキルトレーニング (Social Skills Training; 以下SST) を小学校や福祉施設などで実施し、その効果検討を行う研究も実施してきました。

心理系専攻

准教授

おおつい かなこ

大対 香奈子

k\_otsui@socio.kindai.ac.jp



<https://researchmap.jp/kanakotsui/>

### 研究テーマ

#### 1. 学校コンサルテーション

現在、徳島県の教育委員会と連携して、「学校が変わる！『ポジティブな行動支援』事業」において小学校の通常学級や特別支援学校でのコンサルテーションを行うアドバイザーチームの一員を務めています。この事業では、1校につき年に2回のコンサルテーションを行い、1回目のコンサルテーションで児童生徒の問題行動についてのアセスメントと支援計画をし、2回目のコンサルテーションまでにデータを取って、問題行動が改善しているかの経過を確認します。2回目のコンサルテーションでは支援の成果について検討し、必要に応じて支援計画の内容の修正を提案します。年度末には事業の成果報告会があり、各学校での実践的取り組みについてデータを示してポスター発表会を行い、学校間での情報交換を行います。

#### 2. 支援員による学校適応支援の効果

2014年9月より、近畿大学の近隣の小学校2校、こども園1園において、学生を支援員として配置し支援活動を行っています。応用行動分析を学んでいるゼミの3年生、4年生、大学院の学生をボランティアの支援員として、各学校園に4名程度ずつ派遣し、それぞれの学生が週1回ずつ決まった曜日に学級で学習面や行動面で困難を抱える幼児・児童に支援を行っています。支援の内容については、毎回支援レポートという形で報告させ、子どもとの関わり方や支援の仕方について学生に助言や指導を行い、学校園からの要請があれば支援対象となっている子どもの様子や学級の様子を私が見に行き、先生方に直接アドバイスをするなどしています。大学と地域との連携プロジェクトとして、また学生の学びの場としても有意義な活動です。

### 3. 福祉施設等におけるSSTのアドバイス

放課後等デイサービスや高校の通級指導教室、また児童自立支援施設などで、社会性や対人関係に関わるスキルを学ぶソーシャルスキルトレーニング (Social Skills Training; SST) を行う上での研修やアドバイザーをしています。具体的には、施設や学校のスタッフに対し、支援プログラムの提案やプログラムの作成や実施についてのアドバイス、プログラムの評価についての補助などを行っています。データ収集による効果検証は、研究のためという目的だけではなく、行っている実践がどれほど効果的であるかを常にモニターしながら、必要に応じてすぐにプログラム内容を修正するという柔軟な対応ができるようにするためでもあります。

### 4. 公共マナー向上のための介入研究

ゼミ3年生と行う研究プロジェクトでは、毎年公共マナー向上のための介入研究を行っています。扱う具体的な内容は、その年の学生の関心によって変動はしますが、これまでに取り組んできたテーマとして、キャンパス内の喫煙禁止区域での喫煙行動、キャンパス間をつなぐ横断歩道上での歩きスマホ、ゴミの分別、授業中の私語、授業への遅刻、キャンパス内での自転車の安全な走行等を対象として、介入研究を行ってきました。まずはベースラインとして現状、それらの行動がどの程度の頻度で見られるのかを観察によりカウントします。その後、ポスターを掲示するなどして、公共の行動がどう変化するかを再度観察により確認し、行った介入の効果を検討します。

## 論文・作品・表彰・特許等

1. 大阪府立子どもライフサポートセンター・服部隆志・大対香奈子 (2014). このまま使える！子どもの対人関係を育てるSSTマニュアルー不登校・ひきこもりへの実践にもとづくトレーニングー 京都：ミネルヴァ書房. (2014年9月発行)
2. 大対香奈子・堀田美佐緒・竹島克典・松見淳子 (2013). 日本語版SLAQの作成:学校適応の規定要因および抑うつとの関連の検討. 日本学校心理士会年報, 第6号, 59-69. (2014年3月発行)
3. 大対香奈子・松見淳子 (2010) 小学生に対する学級単位の社会的スキル訓練が社会的スキル・仲間からの受容・主観的学校適応感に及ぼす効果 行動療法研究, 36 (1), 43-55. (2010年1月発行)
4. 2010年度 日本行動療法学会 内山記念賞受賞
5. 2007年3月 博士 (心理学) の取得 (関西学院大学)

## 現在の研究活動

日本生命財団 児童・少年の健全育成助成 <平成29年10月～平成30年9月>

『学校での児童生徒の教室支援における実践介入と評価のためのツール開発』

科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 基盤研究 (C) <平成30年4月～平成33年3月>

『学校規模のポジティブな行動支援の効果的な導入および実践と教員の専門性向上』

## ゼミの宣伝等

私のゼミでは、小学校や幼稚園、福祉施設など、様々な現場で主に子どもを相手にしたボランティア活動にほとんどの学生が従事しています。このような現場での経験は、現場の子どもたちのためということはもちろんですが、何よりも学生自身の学びと成長に大きくつながる経験になっていると、ここ数年の活動を通して感じています。